

特定非営利活動法人メッシュ・サポート所属ビーチクラフト式A36型
JA4577の航空事故調査について
(経過報告)

令和5年2月16日
運輸安全委員会（航空部会）

運輸安全委員会は、令和4年3月12日、沖縄県伊江島空港において特定非営利活動法人メッシュ・サポート所属ビーチクラフト式A36型JA4577が滑走路04に進入した際に墜落し、搭乗者2名が死亡した航空事故について、令和4年3月から原因を究明するための調査を進めてきたところであるが、これまでの調査で得られた情報をもとに、更に事実の確認や分析を進めるとともに、原因関係者からの意見聴取及び関係国への意見照会を行う必要がある。このため、本件調査については、本航空事故が発生した日から1年以内に調査を終えることが困難であると見込まれる状況にあることから、運輸安全委員会設置法第25条第4項の規定に基づき、以下のとおり当該調査の経過を報告する。

なお、本経過報告の内容については、今後、新たな情報の入手等により、修正されることがあり得る。

また、本調査は、本航空事故に関し、運輸安全委員会設置法及び国際民間航空条約第13附属書に従い、航空事故及び事故に伴い発生した被害の原因を究明し、事故等の防止及び被害の軽減に寄与することを目的として行うものであり、本事故の責任を問うために行うものではない。

1. 航空事故の概要

特定非営利活動法人メッシュ・サポート所属ビーチクラフト式A36型JA4577は、令和4年3月12日（土）、慣熟飛行訓練中、伊江島空港の滑走路04（長さ1,500m、幅45m）へ進入した際、空港敷地の境界を示すためのフェンスに衝突した後、滑走路04手前の緑地帯に墜落して機体が大破・炎上した。同機には、機長ほか1名の同乗者が搭乗しており、両名とも死亡した。

2. 調査の概要

運輸安全委員会は、令和4年3月12日、航空事故として通報を受けて本事故の調査を担当する主管調査官ほか2名の航空事故調査官を指名した。現時点までに関係者からの口述聴取、エンジン分解調査を含む航空機の調査、気象の調査等を実施した。

本調査には、事故機の設計・製造国であるアメリカ合衆国の代表が参加している。

3. 判明している主な情報

(1) 飛行の経過

同機は、新たに採用した操縦士（以下「機長」という。）の伊江島空港での慣熟飛行訓練のため、機長が左操縦席、同乗者が右操縦席に着座し、12時40分ごろ滑走路04から離陸した。同機は、右場周経路を飛行し、「ファイナルアプローチ」と一方送信した上で、滑走路04に向け最終進入を行った。



図1 事故機

その後、12時45分ごろ、同機は空港敷地の境界を示すためのフェンスに衝突した後、滑走路04手前の緑地帯に墜落して機体が大破・炎上し、機長及び同乗者が死亡した。

(2) 死傷者

搭乗者2名 死亡

(3) 航空機の損壊

大破：エンジン、両主翼及び尾部の一部を除き焼失



図2 事故機の損壊状況

(4) 地上の物件の損壊

滑走路04末端の南西約60mに設置された空港敷地の境界を示すためのフェンスが、支柱4本を含む幅約8mにわたって損壊していた。



図3 損壊したフェンス

(5) 気象

事故発生時間帯の伊江島空港での観測値

観測時刻	風向	風速 (m/s)	降水量 (mm)
12時40分	東北東	5.4	0.0
12時45分	東北東	5.6	0.0
12時50分	東北東	5.8	0.0

4. 今後の調査

本航空事故の原因及び本航空事故に伴い発生した被害の原因の究明並びに事故の再発防止策の検討のため、これまでの調査で得られた情報をもとに、搭乗者の身体状況など、更なる事実確認や分析のほか、原因関係者からの意見聴取及び関係国への意見照会を行う必要がある。

本委員会は、これまでの調査、分析等によって得られた結果を踏まえて、引き続き本航空事故の原因等の調査を進める。